

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—22003

⑤ Int. Cl.³
A 45 B 25/02
25/18

識別記号

庁内整理番号
8008—3B
8008—3B

⑬ 公開 昭和58年(1983)2月9日

発明の数 1
審査請求 有

(全 4 頁)

⑭ 傘外部円曲二又装置

横浜市戸塚区桂町675—16

⑮ 特 願 昭56—119121

⑰ 出 願 人 児玉征男

⑯ 出 願 昭56(1981)7月31日

横浜市戸塚区桂町675—16

⑰ 発 明 者 児玉征男

⑱ 代 理 人 弁理士 新井一郎

明 細 書

1 発明の名称

傘外部円曲二又装置

2 特許請求の範囲

傘骨先端を中央付近より先の曲った二又を取り付け、使用時やや広がるようにし防水布と固定先部の先端の曲り部を防水布でかくし傘の外形が円曲に成る装置。

3 発明の詳細な説明

従来の傘は八角十角形等先部に突部があり、使用時混雑歩行中等わずかの動作にも対人等に特に危険性が有り、最悪の場合顔目等特に注意が必要で最も危険度の高いもので有った。

この装置は、やや弾力の有る先の曲った二又を中部付近より取り付け、二又は開く時やや広がるように先部を防水布と固定先部を防水布でかくすことにより外面が円曲状に成り従来の突部が不要になる。

これを取り付けることにより外形が円曲にな

り混雑歩行時対人物等への恐怖危害を最少限にすることができ、従来のおりたたみ開閉にも支障なく特に安全で有る。

4 図面の簡単な説明

イ 図 開いた時 ロ 図 閉じた時
ハ 図 従来の物
ニ 中 心 ホ 外形線

特許出願人 児玉征男

昭和58年2月23日

特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 事件の表示

昭和56年特許願第119121号

2. 発明の名称

傘外部円曲二又装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 神奈川県横浜市戸塚区桂町675-14

氏名 コダマ ユキオ
児玉 征男

4. 代理人

〒227 電話 045-871-7788

住所 横浜市戸塚区上郷町2022番地

氏名 (722*) 弁理士 新井 一郎

5. 補正命令の日付

昭和57年1月26日

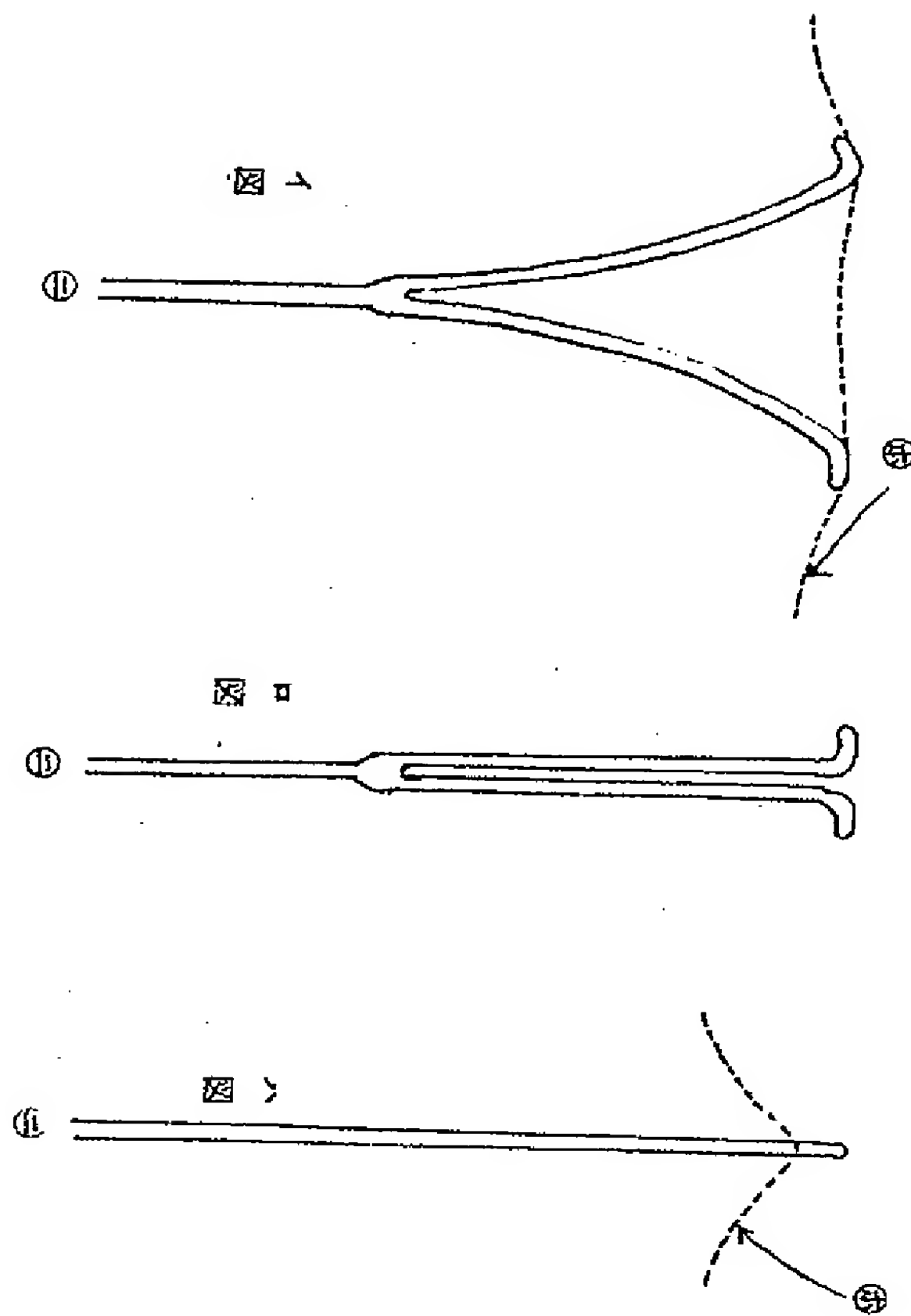
6. 補正の対象

願 書

明細書の図面の簡単な説明の欄

図 面

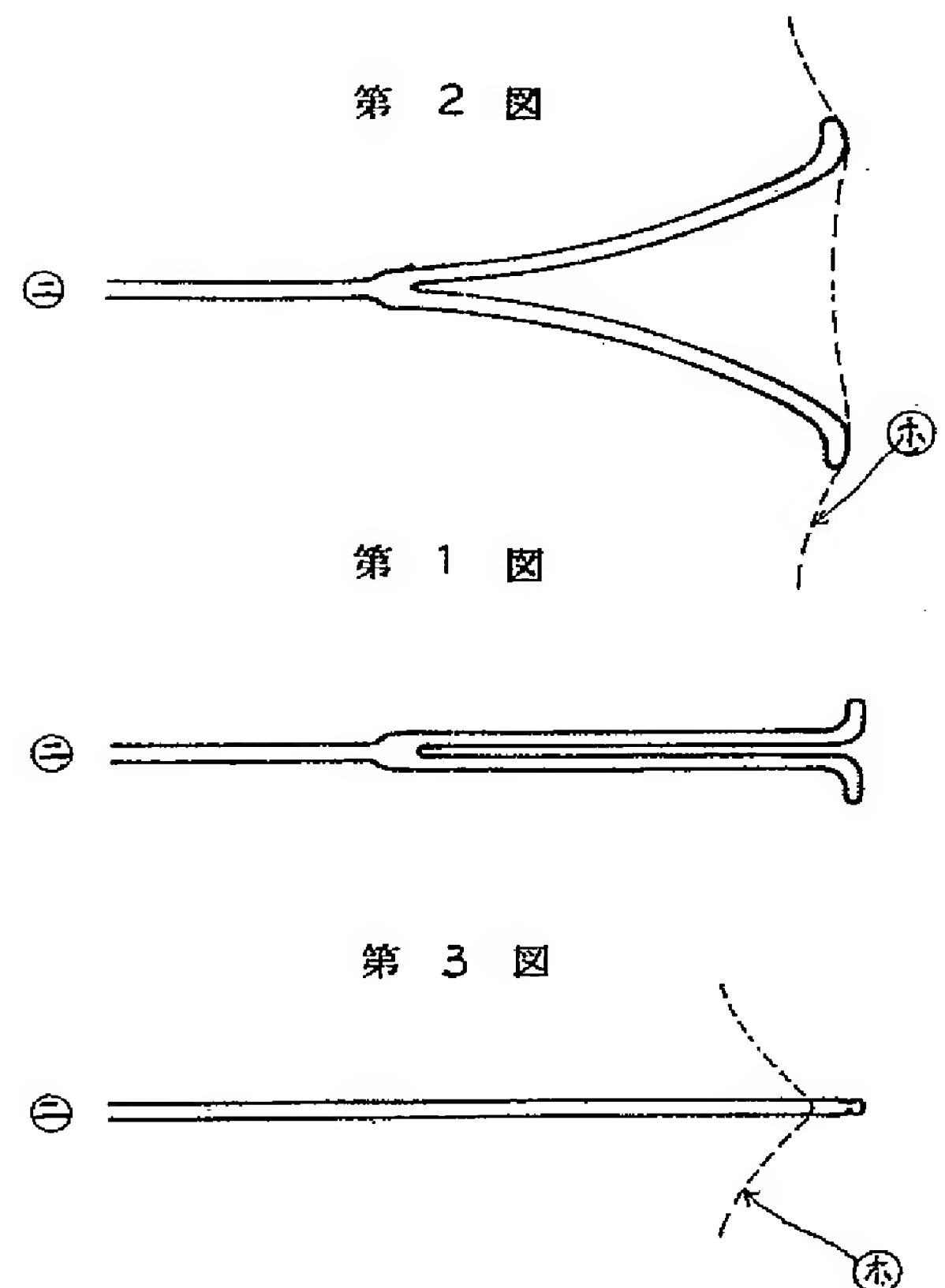
7. 補正の内容



願書 別紙のとおり

明細書第2頁5行目、6行目、7行目を削除し次の文を加入する。「第1図は本発明の実施例を示す正面図、第2図は第1図の作用を示す正面図、第3図は従来例の正面図である。

図面全図を別紙のとおり訂正する。



手続補正書(自発)

明細書

昭和57年9月7日

特許庁長官 若杉和夫 殿

1 事件の表示

昭和56年特許願第119121号

2 発明の名称

傘外部円曲二又装置

3 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 神奈川県横浜市戸塚区桂町 675-16

氏 名 児玉 征 男

4 代理人 電話 045-891-7788

住 所 横浜市戸塚区上郷町 2022 番地

氏 名 (特許) 弁護士 新 井 一 郎

5 補正の対象

明細書の全文

図面の全図

6 補正の内容

明細書 別紙のとおり

図面 別紙のとおり

た。

この発明は、やや弾力の有る先の曲った二又枝骨を陣笠に枢着された傘骨と一体に傘骨先端に中部付近より形成、又は別のものを取り付け、二又枝骨は開く時広がるように先端を被覆地でかくすことにより傘の周縁が円曲状に成り従来の突部が不要になる。これによって傘の外周より突出する危険物をなくして外周の円曲な傘を提供することを目的とするものである。

以下、図面に従って本発明の実施例について説明する。第1図は本発明の実施例を示す正面図である。図示されない陣笠に根本が枢着された傘骨1の先端は平行な二又に分岐し、弾力性を有する枝骨2, 2に分れ、先端は互に反対方向に曲り部3を備える。枝骨2間は第1図の状態より傘を開いた正面図の第2図に一部を示すように被覆地4が広がるように被覆地4を枝骨2に係止してある。該係止方法は通常の布地と傘骨の結合と同じく、被覆地4の縫目を枝骨2に一致させ、縫目部分と枝骨を糸で緊結する(

1 発明の名称

傘外部円曲二又装置

2 特許請求の範囲

1 陣笠に枢着した傘骨を傘を開いた状態で放射状に配し、被覆地を傘骨に係止して傘骨等を被覆地で覆った傘において、傘骨先端を傘を閉じた状態でほぼ平行に二又分岐して枝骨を設け、傘を開いたとき該枝骨の二又間が広がるように被覆地を配し、枝骨の分岐した先端を互に反対向に被覆地周縁方向に曲り部を設け、曲り部を被覆地周縁と一致させてなる傘外部円曲二又装置。

3 発明の詳細な説明

この発明は傘骨に関する。

従来の傘は第3図に一部示すように大略八角十角形等になり、角の先端に突部5が有り、使用時混雑する道路等を歩行中わずかの動作にて人も人を傷ける危険性が有り、最悪の場合顔目等特に注意が必要で最も危険度の高いもので有っ

図示されない)。然して、第2図の状態に被覆地4の縁が形成され、且つ曲り部3は被覆地4でかくすように巻付ける。

傘骨1は陣笠に枢着された部分から枝骨2の先の曲り部3まで弾力材で一体に作ってあるが、先端に近い傘骨1の部分で分割してもよい。即ち、傘骨1と枝骨2で構成される二又を一つの部品として、陣笠に枢着されている傘骨1に連結してもよいのである。この連結は連結具を用いてもよく、又、接着併用、溶接等の手段でもよい。

第2図は正面図を示すが平面図としても曲率長さ等は変化するが同図形である。これを傘を開いた状態の全体を平面図で見ると第4図の如くなる。第4図では被覆地4を透明なビニールシートとして示してある。即ち、傘の外周縁には突出部分がなく全体として円曲であり滑らかとなる。

以上のように本発明は陣笠に枢着された笠骨を傘を開いた状態で放射状に配し、被覆地を傘

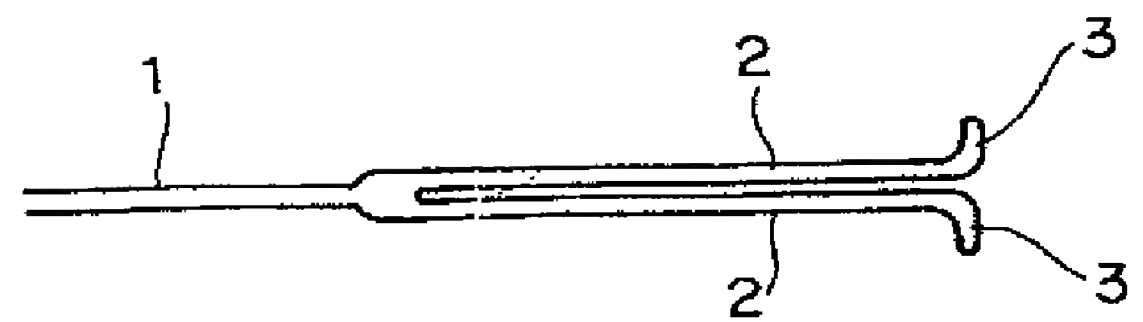
骨に保止して傘骨等を被覆地で覆った傘において、傘骨先端を閉じた状態でほぼ平行する弾性体よりなる二又分岐の枝骨を設けたから、傘を開いたとき被覆地の引張りにより該二又分岐した枝骨間が拡がり、傘の周縁は円曲となり、角の外方への突出が少く、枝骨の先に曲り部を設けたから、人が混雑する場所で傘を開いて歩行するとき他人に危害が及ぶことは殆んどなく、又、傘骨突部に対する顔、目等を突かれまいかという恐怖心もなくなる。傘としてもおりのたみ開閉にも支障なく折たたみ時も安全である。被覆地の支持部分が増加するため被覆地縁辺の裂傷等が生じ難い。

図面の簡単な説明

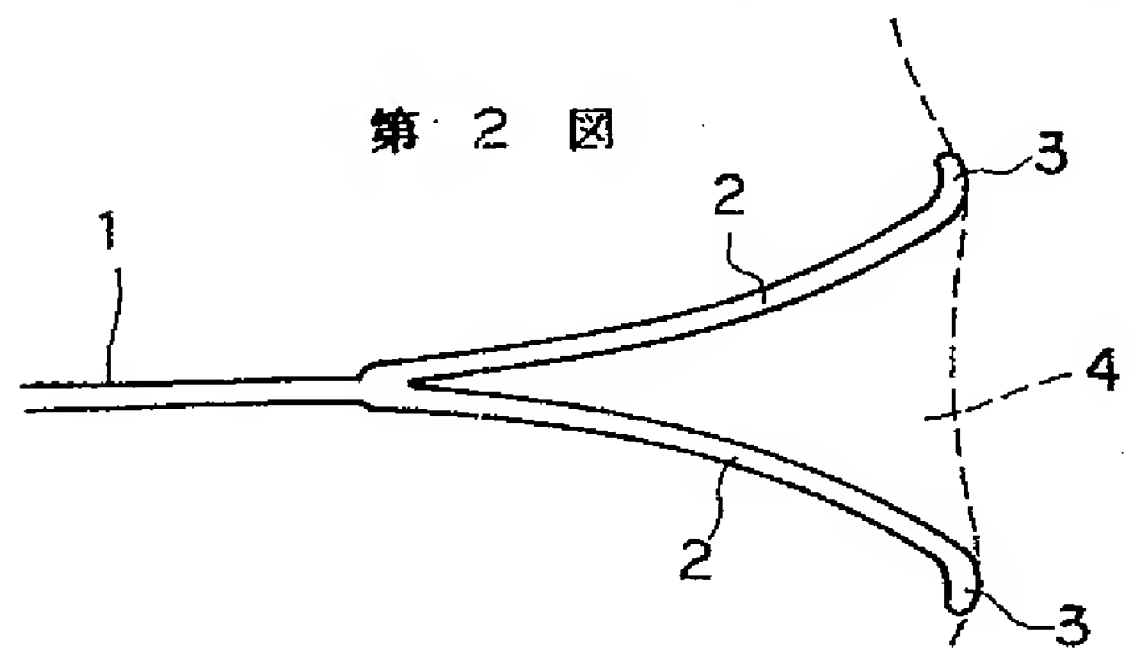
第1図は本発明の実施例を示す正面図、第2図は第1図の作用を示す正面図、第3図は従来例の正面図、第4図は本発明の実施例の平面図である。

1・・・傘骨 2・・・枝骨 3・・・曲り部
4・・・被覆地。

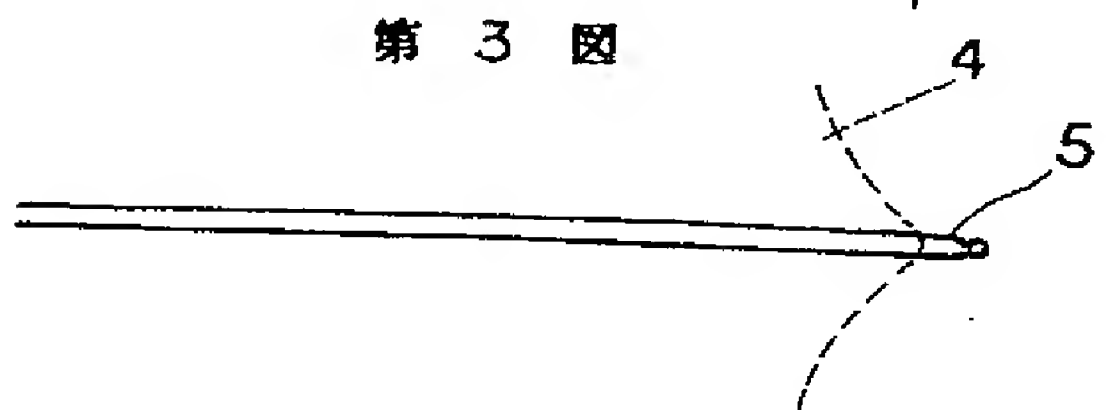
第1図



第2図



第3図



第4図

